

### ●スーパーカブの原点

初代モデルのスーパーカブ C100は、創業者である本田宗一郎と藤澤武夫の直接指揮による開発により、Honda創業から10年目にあたる1958年に誕生しました。

その後続く歴代スーパーカブシリーズは、創業者の想い「人々の生活に役立つ喜びの提供」を受け継いできました。そして以来60年にわたり「性別を問わず幅広い年齢層に使い勝手の良いモビリティ」を目指して、常に時代や地域ごとの要望に応えることで新鮮な魅力を持ち続け、スーパーカブシリーズは2017年に世界生産累計一億台\*を達成しました。

私たちはスーパーカブ C125の開発に先立ち、このような歴史を持つスーパーカブシリーズの原点として、その特徴を改めて確認しました。

※Honda調べ

### スーパーカブの主な特徴は

#### ○軽快な車体取り回し性

「乗る人」「燃料タンク」「エンジン」などの重量物を車体中心付近にほぼ縦一列に集中配置したことによる高い運動性能

#### ○安心の操縦性能

前後17インチタイヤにより得られる走破性

#### ○優れた居住性

低重心エンジン+低床バックボーンフレームによる“ステップスルー”がもたらす容易な乗降性

下半身への風雨や泥はねからの影響を軽減する「レッグシールド」

#### ○簡易な操作

勾配や積載量などの状況に応じてギア変速が任意に行え、かつ、クラッチ操作を不要としたミッション形式(自動遠心式クラッチシステム)

#### ○小型・高性能で信頼性が高く、優れた経済性をそなえた4ストロークエンジンの採用

これらが無駄なく組み合わされることによって「モーターサイクルの運動性能」と「スクーターの扱いやすさ」の双方を高次元でバランスさせた通勤車がスーパーカブであり、このHonda独創の車体パッケージングは歴代のスーパーカブシリーズに引き継がれています。



■初代スーパーカブ C100